

令和6年度 第3回 広沢小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和6年 10 月16 日(水)13時00分から15時30分
- 2 開催場所 広沢小学校1階 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治 平野 圭吾 山田 谷一
川上 玲子 橋本 憲幸 宮本 慶子 橋本かずよ
佐々木 知成 加藤 いずみ(学校支援コーディネーター)
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 花井 陽一(自治会長)、徳田 陽子(アクト音楽院)
- 6 学校 澤田 強志(校長) 鈴木 俊彰(教頭) 中村 敦(主幹)
渥美 彰三 松井 里奈(音楽主任、音楽部担当) 宮本 里佳(音楽部
担当) 馬淵 達也 中村 和樹 齋藤 亮汰 岡田 祐樹(研修担当)
- 7 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 主幹教諭 中村 敦
- 10 議長の選出について

司会の鈴木から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 部活動(音楽部)の地域移行について
- (2) 個別最適な学習と子供たちに付けたい力について

12 会議記録

司会の鈴木から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

授業参観

本年度、本校が研修として力を入れて取り組んでいる個別最適化の学びを具現化した授業(5年3組算数「平均」)を、学級の子供たちの良い表れ(興味・関心をもった点)や課題(疑問に感じたことや質問事項)をそれぞれ赤い色と黄色の付箋紙に書いていただきながら参観していただいた。

(1) 部活動(音楽部)の地域移行について

議長の指示により、音楽部担当の松井(音楽主任)と宮本から、「音楽部の活動」についての説明があった。また、オブザーバーとして参加していただいた2人からは、音楽部の合唱指導や、地域移行を先行して取り組んでいる他校の様子について以下の発言があった。

- 11月8日の音楽会での発表を目標に部活動に取り組んできている。年間で22日間、週に1、2回活動している。音楽部に所属している児童は、器楽部27名、合唱部17名、音楽が好きな児童が集まって活動している。人数は、年々減ってきているのが課題である。(松井)

- コロナ禍前は、地域の敬老会でも演奏をしていた。かつては、金管部があったが、指導者に専門性が必要となってくるので、器楽部にシフトチェンジをしてきた経緯がある。合唱部は、継続的に徳田先生に大変お世話になっている。(宮本)
- 音楽指導員として携わっている。先生方も異動があり、また、コロナ禍もあり、地域への移行もなかなか進んでいない現状がある。近々、合唱コンクールが浜松を会場に開催の予定があるが、地元浜松からの出場することがない可能性がある。(徳田)
- かつて広沢小の職員として所属していたことがあるが、伝統的に広沢小は、音楽を盛んにやってきた学校である。学校単独で移行していくのか、ジュニアクラブのような形で様々な場所から1か所に集まってやるのか、方向性を考えたい。受け皿がないまま、進めなければならないことに無理が生じる。近くにあつて誰でも楽しめるものが理想である。(花井)
- 地域移行は、20年ほど前、学校・地域・家庭が一体となって子供を育てようと始まった。学校ではなく、地域で子供を指導し、教育も居住の地域で参加するというのがコンセプトであった。蛭塚キッズもその時スタートした。広沢小の開放教室にもピアノを置き、空調を設置した経緯がある。(川上委員)
- 地域移行が進んでいる他校では、会費を集めているところもあると聞いたが、学校での部活は、部費を集めているのか。(矢野)
- 文化財団から講師を派遣していただいたり、必要な経費は、夢育やらまいか事業から支出していたりしているので、部員からの実費負担はしていない。(宮本)
- 蛭塚中からの依頼を受けて、部活移行に関するアンケートを5・6年生対象にとった。アンケートをもとに子供たちが部活動に対してどのように思っているかを把握し、次につなげていきたい。(校長)
- 地域移行に関して協議会としてどう進めていいのかを本日まとめなくてもよいのか。(佐々木委員)
- 地域移行については、時間をとってじっくり協議していきたい。(杉浦会長)

(2) 個別最適な学習と子供たちに付けたい力について

議長の指示により、授業者の中村和樹から、本日参観していただいた授業のねらいやこれまでの子供たちの様子について説明があった。委員からは授業の感想を書いた付箋紙を模造紙に貼りながら、感想を述べていただいた。それを基に御意見を出し、類型化した。

タブレットの使い方

- ・パソコンを使いこなす力がすごい。(加藤委員)
- ・広沢小の5年生がタブレットをかなり使いこなしている様子を見ることができた。

自主的な活動について

- ・自分の課題を解決するために積極的に動いている姿がたくさん見られた。(矢野)
- ・問題を作ってみることで、それぞれの理解度が測れると感じた。(佐々木委員)

個別最適な学習について

- ・教え合うことで再理解ができて良い。(加藤委員)
- ・授業の理解度のプロセスを大切にしていこうとしていた。(山田委員)
- ・いろいろなお友達の考え方を共有でき、より理解することが出来る。(橋本委員)
- ・自分で考え、問題を作成していく形は子供たちのよりやる気を引き出している。(川上委員)

教師の支援・評価

- ・自分の課題(どこが分かっていないのか)に気付くきっかけを子供自身がどのように得ていくのか。身に付けたい「平均」の考え方を獲得するためのしかけが少ない気がした。(矢野)
- ・個と個が連携していることは感じたが、群れ＝集団(クラス)として一体感をどう創っていくのか。(佐々木委員)
- ・授業中の先生が、どういう児童に個々に声掛けをしているか知りたい。(宮本)

子どもに対するフォロー

- ・遅れている児童への対応を先生がしっかり指導できているのか。(川上委員)
- ・自分の課題のを見つけたり、次への見通しをもたせたりする振り返りの時間を毎時間設けている。その振り返りシートを教師が目を通すことで、児童の実態を把握するようにしている。(和樹)
- ・個々の進捗状況が分かるように ICT を活用し把握できるようにしている。(和樹)
- ・遅れている児童と接する時間の差は。(平野委員)
- ・クラスの状況の把握(それぞれの子供がどういう理解度か)が大変だなと思った。
→ 評価にどうつなげるのかを考えていかなければならない。(矢野)

その他報告事項等

- 主幹教諭の中村から4月に行われた全国学力状況調査の結果や考察について説明があった。
- 発達支援コーディネーター矢野より読み聞かせ、図書館、大掃除の各ボランティアについての報告があった。
- 教頭から次回の熟議内容(学校運営協議会の自己評価)について連絡があった。

司会から、次回会議は、令和7年2月21日(金)13:00～15:30開放教室で開催する旨の報告があった。